

11 | 留保各論 準抛法

第10話：太平洋編II

——長崎、「蝶々夫人」

日時／場所：2012年7月1日，神戸オリエンタル劇場
全幕イタリア語で上演（翻訳字幕スーパー付）

第一幕：長崎の港を見下ろす丘

（明治維新からしばらく経った頃。合衆国軍艦「エイブラハム・リンカーン」が長崎港に投錨中，海軍士官ピンカートンは眼下に港を望む素晴らしい景色を持つ小高い丘に「紙や木でできた，棒切れでも動かさそうな小さな」日本家屋を借り受ける。障子を物珍しそうに動かしながらピンカートンは合衆国領事シャープレスと談笑している。ピンカートンは周旋屋のゴローを通じて日本人の「花嫁」を探し，ゴローはまだ15歳の少女を斡旋する。容貌についてシャープレスが問いかけると，ゴローは「それはそれは美人ですとも。瑞々しい花のよう，輝いています。しかもタダ同然，たったの100円！」と請け負う。その美しい少女——「蝶々さん」——は，ゴローによれば，もともとは立派な武家の娘であったが瓦解（＝明治維新）で家が落ちぶれ，芸者をして母を支えているとのこと。ピンカートンはゴローに早く蝶々を連れてくるように急かす。ゴローは慌てて舞台を退出する…）

ピンカートン：契約は999年，しかもいつでも解約自由。居間と寝室が紙のスクリーンで自在に変化するこの国ならでは！ 家も契約も伸縮自在です。

シャープレス：世慣れた人はうまく利用するものですな。

（ピンカートン，合衆国国歌の旋律に乗せ自信に満ちて歌う）

世界中のずくも さすらいのヤンキーは
危険をかえりみず 享楽に身を任せ
嵐で船が壊れるまで 運命に任せて錨を下ろす…

領事殿，ミルクボンチ，それともウイスキーはいかがですか？

人生に挫折はつきもの その度に立ち直る
その才能をどこででも 見事に発揮するでしょう
（ピンカートンとシャープレス，杯を合わせながら唱和）アメリカよ，永遠なれ！

ピンカートン：こうして私は日本式に999年間の契約で結婚するわけです。いつでも解約できるということで。

シャープレス：しかし…それは安直では？（真面目に）一昨日彼女は領事館にやってきた。会いませんでしたが隣の部屋から聞こえるその声に感動しました。恋する乙女はあのように話すものか、と。軽やかな羽を折り、あのを悲しみに沈ませてはなりません。

ピンカートン：（陽気な口調で）領事殿は優しいですね。でも、その羽を甘やかな愛に向け羽ばたかせるのなら、それはそんなに酷いことではないでしょう？ さあ、ウイスキーをもう一杯どうです？

シャープレス：乾杯！ はるか彼方にいらっしゃる貴方のご家族のために。

ピンカートン：乾杯！ そして、私が本当に結婚する日と本当の花嫁…アメリカの花嫁のために！

（そこにゴローの先導で白無垢姿の蝶々が、母や親戚、そして色鮮やかな着物を着た大勢の女友達に囲まれて丘に上がってくる。ようやく丘に到着すると皆がその眺望を讃嘆する。ピンカートンは優しく蝶々を出迎え、挨拶を交わす）

蝶々：（恭しくお辞儀をして）ピンカートン様、お会いできて光栄です。私は日本中で、いいえ世界中で一番喜びに溢れた娘です。愛が私をここに導きました。

ピンカートン：蝶々さん、なんて美しい名前だ。貴女にとっても相応しい。

蝶々のいとこ：（ピンカートンの美男子ぶりに、やや嫉妬して）まあ、あんまり美男子ではないのね。

蝶々：（ちょっと怒ったフリをして）これ以上には望めないほどの美男子だわ。

シャープレス：（少し離れたところでピンカートンに）ああ 幸せな友よ！ この蝶々さんほど美しい娘を見たことはない。花のようだ。たとえ貴方にとっては戯れでも、契約と彼女の誠実を大切になさるがいい。（蝶々を見て）彼女は真剣だ。

ピンカートン：（蝶々を眺めながら）そう、本当に、花、花です。私はその異国的な香りにおかしくなりました。

（ピンカートンが蝶々の手を取ろうとするが、蝶々の袂が荷物で膨らんでいるので、袂から取り出すように促す。手拭などに交じって小箱があり、蝶々は「私の神聖なものです」と言って中身を見せずに部屋に仕舞いに行く）。

ピンカートン：（怪訝な顔をして）あれは？

ゴロー：あれは父親が殿様から賜った小刀です。父親は殿様の命に服しました（切腹のまねをする）。

（ゴローが「皆さんお静かに！」と騒々しい親戚・女友達らを制し、挙式が始まる）

役人：（厳かに）北アメリカ合衆国、海軍の戦艦「エイブラハム・リンカーン」の中尉、ベンジャミン・フランクリン・ピンカートン殿と、長崎は大村町の令嬢蝶々さんが、夫婦の契りを結ぶことを法によってここに認めます。

友人一同：（儀式ばって何度もお辞儀をする）蝶々夫人！

蝶々：（手を振って訂正する）B. F. ピンカートン夫人よ。

（式が終わりシャープレス、役人、戸籍係が退出。日本舞踊が演出され華やかな宴会になる。と、そこに叔父の僧侶「ボンゾ」が登場、蝶々が教会に行ったことを咎め「この女は我々を見捨てた。昔からの信心を捨てたのだ！」などと責める。親戚や友人たちも怒って騒ぎになる。ピンカートンが騒動に耐えかねて一喝すると、一同、蝶々を見捨てて立ち去る。一人ぼっちになった蝶々は顔を手で覆って泣いている。ピンカートンが優しく手をとって慰めると、蝶々はピンカートンとともに生きる覚悟を決め親族の誰にも告げず改宗したと話す。ピンカートンは感動し蝶々を抱きしめる…夜の帳が落ち、「愛のデュエット」が始まる）

蝶々：私は月の女神…そして今、貴方は私にとっての大空の中心です。背が高く、とても力強い方。とても朗らかに笑われる。そのうえ、私が聞いたこともないことをおっしゃる…。

ピンカートン：（優しく両手をとって）魅惑に満ちた眼差しの愛らしさ、百合の花のような着物、真っ白なヴェールから覗くその黒髪。私は君を捕まえた。打ち震える君を抱きしめるのだ。さあこちらにおいて…。

蝶々：（身を投げかけて）ええ、生涯かけて。

（ピンカートンに手を引かれ、蝶々は恥じらいに俯きながら障子の向こうの寝室に消えていく…音楽がデクレッシェンドしていくとともに障子を照らしていた燈火も消えていく）

観客：（音楽が切れた瞬間、歓声と拍手）「よしっ！」「いいぞ〜!!!」

場内アナウンス：（大拍手の中）第二幕まで45分間の休憩に入ります。メイン・ロビー・ホールには各種お飲み物や軽食を取り揃えております。今宵のスペシャル・カクテル「マダム・バタフライ」も是非お楽しみください。

—インターミッション—

（豪華なシャンデリアの下、着飾った大勢の観客でごった返すメイン・ロビー・ホール。長蛇の列からようやく「マダム・バタフライ」を確保した同期の弁護士二人が談笑している）

ヤクシデ〔オペラ初心者弁護士。最近商社に入社し法務部に配属〕：やあオオウナバラ君、今日は誘ってくれてありがとう。最後の蝶々さんとピンカートンのデュエットは素晴らしかったね。僕は「蝶々夫人」って名前だけは聞いてたけど、オペラ見たことなかったんで、てっきりテニスの話かと思ってた。イタリアのブッチーニっていう人が作曲したということだけど、どこか懐かしい日本の旋律が織り込まれていて、なかなか印象的だね。色とりどりの着物姿で舞台も華やかだ。それにしてもあのピンカートンって怪しいなあ。確かに美男で制服姿もカッコよく蝶々さんが魅了されるのは分かるけど、当時のレートが分からんけどさ、蝶々さんをたった100円で結婚名目で買って、すぐ捨ててアメリカに帰るつもりじゃないの？ 大体、海の男って浮気者が多いって聞いているぞ。

オオウナバラ〔海事を専門とするオペラ好き弁護士〕：まあそのへんの成り行きはこれから観てのお楽しみとして、なかなかあの蝶々役は典型的な日本美人でいい。黒髪に柳腰で役にピッタリ、声もいいなあ。以前、ローマのカラカラ浴場遺跡屋外オペラでイタリア人歌手が演じるのを観たことあるけど、かなり恰幅のいいソプラノでね。声は確かに素晴らしかったけど、なんか繊細感がなくて、(苦笑いしながら)結局ず〜っと目をつぶって聞いてたくらいなんだ。

ヤクシデ：今夜のヒロインは素敵だね。ところで、そもそもピンカートンって何者さ？ 冒頭でピンカートンはもう長崎に上陸してて「アメリカよ、永遠なれ！」なんて気分良く歌いながら乾杯する場面になるんで、この人物がどういう事情で日本に来ているのかが今一つよく分からないんだ。

オオウナバラ：そうだね、ちょっと分かりづらいね。君は鎖国を終わらせた日米和親条約は知ってるよね？ えっ、時代劇で新撰組とか坂本竜馬は知ってるけど、条約の中身はよく知らない？ 19世紀半ばまでにアメリカはGo West(西進)によってカリフォルニアに達し、海洋新興国としてハワイを影響下に置いて(第9話(117頁以下)参照)、さらに太平洋の彼方、清朝(中国)をうかがうようになった。そこには既にアヘン戦争で権益を獲得し

ていくイギリスなど西國を確保できればアメリカの途中に横たわる日本が料を供給する港を開かす力に幕府を威圧し開国を持っていたんだ。その政策をみることもできるから東回りでの中国経由でヤクシデ：ふ〜ん。なるんだらうね。でもさ、「法」がどうかかわるのオオウナバラ：とりあらず式に999年でいつでも解(一口飲みながら)おっ美味しいね。

ヤクシデ：たしかに、とかなんとかフザケた法の話だろう。ピンカートンから、実質的準拠法に法的準拠法「方式」の問題から、当時の方式に則った婚姻行地が「方式」の—locus regit actum)待てよ。長崎居留地で人だから教会で挙式をたっけ。僕はこう見え一通り勉強したんだけどオオウナバラ：う〜ん(行)は「通則法」(法の

オオウナバラ：不動産への担保に関する契約自由の原則の制限の問題として、融資契約の準拠法と付随する担保権設定契約の準拠法が異なる、ということはあるよね。でも君が言っているのは、一つの契約書の中で例えば「●条は中国法、▲条は日本法」、などと準拠法を振り分ける「分割指定」の問題じゃないか？ 実務でもたまに見かけるね。日本では当事者自治の観点から有効だ、という考え方が強く、海上貨物保険証券上の保険者の填補責任の有無とその内容については英国法によるという条項は分割指定をしたものとした裁判例がある。ただ、一般論として分割指定を否定した裁判例もある

から注意が必要だ。君のケースも念のため中国法の扱いを中国法弁護士に確認しておくほうが安全だね。なお分割指定に似て非なる概念として「準拠法の分割」というのがある。例えば日本法を一般的に準拠法指定しておきながら、「日本法●条は適用せずフランス法▲条を適用する」とドラフトすると、これは一般に認められないとされているからドキュメンテーションでどちらの問題なのか注意が必要だね。(アナウンスを聞いて) あっ、そろそろ二幕目が始まるから席に戻ろう。第二幕では蝶々さんの有名なアリア(独唱)があるよ。

第二幕：蝶々の家の中

(ピンカートンが「必ず帰る」と言い残して出航してからもう3年、何の便りもない。蝶々は気丈に彼を待ち続ける。彼が置いていったお金は段々少なくなっていき、甲斐甲斐しく蝶々の身の回りの世話をする女中のスズキも遣り繰りに苦労

❖資料17 「日本郵船ポスター
(1916年) (パールをかぶる女性)」❖



(横浜みなと博物館収蔵)

している)

スズキ：(祈りながら) イザナギ、イザナミの尊、猿田彦の命、神々様…そして、天照大神！ 蝶々さんがもう泣かないようにしてあげてください…。もう泣かないように。

ヤクシデ：(客席でブツブツと) 通則法、方式、アメリカ法…。そういえば西欧諸国は自国民が海外で結婚をするときには「領事婚」を有効とするというのも多かったなあ…おっと、シャープレスは領事だ！ なんだ、アメリカ方式としても有効じゃないのか。じゃあピンカートンに結婚は無効だとは言わせないぞ。

(もうピンカートンは戻ってこないという周囲の声にスズキも耐えかねて「外国人の夫が古巣に戻ったことは聞いたことがありません」と弱音を吐くが、蝶々は確信に満ちてスズキに向かって「ある晴れた日に」を歌う)：

ある晴れた日に
はるか彼方の水平線の向こう 一筋の煙が上る
真っ白な船が 港に入ってきて礼砲を響かせ…
男の人が一人で丘に登ってくる
誰、誰なの？ そうしたらその人は「蝶々さん」と呼ぶ
私は返事をしないで そのまま待つ 待つのは慣れてゐる
ちょっと口たずら半分て そして会った途端に喜びのあまり死なないうように
そして彼は心配してこう呼ぶの
「可愛い奥様 パーベラの香りのきみ」
ここに来た時に 彼が私に付けてくれた名前
心配しないで 必ずこうなるのだから

観客：(ひと呼吸置いて爆発するように拍手と歓声)「ブラーバ！」「よし!!」
「いいぞ〜!!!」

(18歳になった蝶々の美しさを聞きつけた金持ちのヤマドリ侯爵がゴローの周旋で蝶々に求婚するが、蝶々は頑として受け入れない。侯爵がまた蝶々を口説こうとゴローを伴ってやってきたある日、シャープレスがピンカートンの手紙を持ってきて鉢合わせする。ピンカートンは既にアメリカ人女性と結婚し、シャープレスを通じて蝶々に真実を告げ、得心させて欲しいと告げていた)

ゴローとヤマドリ：(困った顔をして) まだ結婚したままだと思い込んでいる。

蝶々：(毅然として) 思い込みではありません。事実です。

ゴロー：でも法律が…。

蝶々：そんなものは知りません。

ゴロー：妻にとって、捨てられ
蝶々：日本の法律は…もう自

ゴロー：ではどこが？

蝶々：合衆国です。

シャープレス(と客席でヤク

蝶々：(いらいらし、次第に
を離婚と言うのですわ。でも

スに顔を向けて) そうですわ

シャープレス：(当惑しながら

蝶々：(勝ち誇ったようにコ
婚したいのです) などと夫が

牢屋送りだ) と言ってください

ゴロー：(シャープレスとヤ

た。

ヤマドリ：(失望して) 彼女

シャープレス：(ヤマドリと

に悟らせるために私は今日こ

(蝶々の意志の固いのを知り
しようとする。しかし、ピン
喜する蝶々が不憫で、途中で

シャープレス：(いらいらし

ヤクシデ：(立ち上がっ

ろ！ 重婚じゃないのか

オオウナバラ：(慌てて

隣の女性客：シーッ！

(シャープレスは蝶々の子
娘に生まれた子どもだ。シャ
ゴローが「アメリカでは内親
いて蝶々が怒り小刀を振り」
り、ゴローを庭先から蹴飛ば
の時、港のほうで礼砲が鳴る

スズキ：白い…白いお船です
です！

蝶々：(急いで望遠鏡を取
戻ったんだわ！ 誰もが間違

ゴロー：妻にとって、捨てられたのは離婚と同じです。

蝶々：日本の法律は…もう自分の国のものだとは思いません。

ゴロー：ではどこが？

蝶々：合衆国です。

シャープレス（と客席でヤクシデ、同時に）：（独白）ああ、不幸な女！

蝶々：（いらいらし、次第に興奮して）ここでは戸をあけて奥さんを追い出すのを離婚と言うのですわ。でもアメリカではそんなことはできません。（シャープレスに顔を向けて）そうですね？

シャープレス：（当惑しながら）そうですとも…でも…

蝶々：（勝ち誇ったようにゴローとヤマドリに）あちらでは「嫌になったから離婚したいのです」などと夫が言ったら立派な判事さんが「ああ、悪い奴め。早速牢屋送りだ」と言ってくれるのです。（話を打ち切るために）スズキ、お茶を。

ゴロー：（シャープレスとヤマドリに小声で）もうピンカーтонаの船が見えました。

ヤマドリ：（失望して）彼女は彼に会おうとする。

シャープレス：（ヤマドリとゴローに）彼はここに来るのを望んでいない。彼女に悟らせるために私は今日ここに来たのだ…。

（蝶々の意志の固いのを知りヤマドリは退出。シャープレスは手紙の内容を説明しようとする。しかし、ピンカートンが彼女の下に戻ってくるものと思込み歓喜する蝶々が不憫で、途中で断念してしまう）

シャープレス：（いらいらして首を振りながら独白）ピンカートンめ、ひどい奴だ！

ヤクシデ：（立ち上がって）ピンカートンめ、ひどい奴だ！ 婚姻は有効だろう！ 重婚じゃないのか！？

オオウナバラ：（慌てて）おいおい、興奮するな。座れ、座れ！

隣の女性客：シーッ！ 静かに！！

（シャープレスは蝶々の子どもを見留める。金髪に青い目…ピンカートンの出港後に生まれた子どもだ。シャープレスは愛おしそうに抱きしめ舞台から退出する。ゴローが「アメリカでは内縁の子は認知されない」などと言いつらしていると聞いて蝶々が怒り小刀を振り上げる。悲鳴を上げるゴロー。間にスズキが割って入り、ゴローを庭先から蹴飛ばして追い出す。蝶々がやや落ち着きを取り戻したその時、港のほうで礼砲が鳴る。スズキが息せき切って帰ってきて言う）

スズキ：白い…白いお船です。星条旗、軍艦です。今、錨を下ろしているところです！

蝶々：（急いで望遠鏡を取り出して）「エイブラハム・リンカーン」！ あの方が戻ったんだわ！ 誰もが間違っていた。私が正しかった！

(蝶々とスズキは抱き合って喜び、ピンカートンを迎えるために深更まで家を花々で飾り立てる。子どもとスズキは疲れて寝てしまうが、蝶々は一人起きたままピンカートンを待ち続ける…)

第二幕終了。短い幕間：

ヤクシデ：いやあゴメン、ゴメン。あんまりなんでカッとしちゃった。

オオウナバラ：君は熱血漢だな。ビックリしたぞ。

ヤクシデ：しかし、ゴローが「内縁」って言いながら他方で「(ピンカートンに捨てられて)離婚した」とも言っていて婚姻は有効という前提でもあるようだし、今一つよく分らん。

オオウナバラ：まあ、そもそもイタリア人の作った劇だからそんなに厳密じゃないのさ。もっとも、さっき君がブツブツ言ってたけど、領事婚だとしたらアメリカ人のピンカートン相手だとしても有効だろう。しかし、これは方式の問題じゃなく、そもそもピンカートンに「婚姻意思」なし、という問題かもしれない。もともとピンカートンはこの契約は「999年、いつでも解約自由」と言っていて、この「999年」というのが欧米流の契約概念ブンブンだけど、それはともかく、本気で蝶々さんと結婚する気がなかったようだから。

ヤクシデ：許せないね。僕が蝶々さんの弁護士なら、「主観的事情は婚姻という重大な身分関係を不当に不安定にするから、『当事者間に婚姻をする意思がないとき』(民法742条1号)は極力狭く解すべきだ」と裁判所に主張し何とか婚姻自体は有効だとしておいて、同居・扶養義務違反などでピンカートンに損害賠償を求めるだろうね。それに、蝶々さんは「日本の法律は知りません。私の法律は合衆国のものです」と、健気にゴローに反論してたから、こうなったらワシントンの陪審に訴えて懲罰的賠償だ。ついでに合衆国政府も訴えてやろう。なにしろピンカートンは海軍中尉、言うなれば国家公務員だからね。星条旗が許してもお天道様は許さないだろう？

オオウナバラ：アハハ、蝶々さんは星条旗が許さない、って言ってるんだぜ。たしかに、ピンカートンは合衆国海軍の軍人だけどアメリカ政府は他国の裁

判管轄には服
immunity)は
し職務範囲の
違うなァ。と
政府は主権免
府の債務不履
府に送り、香
確認を求めた
らね(2012年
場合には要注
ヤクシデ：う
系企業は準拠
系企業とのジ
は投資に関す
ら当該国の法
リシーが書面
れて大喜びの
よ。日本への
所在地だから
けど、あい
んだ。
オオウナバラ
に戻ろう！

第三幕：同じ

(明け方ま
ピンカートン
やってくる。
子どもを引き

るために深更まで家を
が、蝶々は一人起きたま

ッとしちゃった。

地方で「(ピンカートン
という前提でもあるよ

刺だからそんなに厳密
たけど、領事婚だとし
ろう。しかし、これは
意思」なし、という問
「999年、いつでも解
米流の契約概念プンプ
る気がなかったようだ

「主観的事実婚姻と
事者間に婚姻をする意
ど」と裁判所に主張し
務違反などでピンカー
は「日本の法律は知り
ローに反論してたか
賞だ。ついでに合衆国
討、言うなれば国家公
だろう？

って言ってるんだぜ。
アメリカ政府は他国の裁

判管轄には服さないという主張、つまり「主権免除の法理」(sovereign immunity)は民事事件に関しては制限する立場だからいけるかもね。ただし職務範囲の行為と言えるかな… えっ、「船員の非行」？ ちょっと概念が違うな。ところで今思い出したけどこれが中国だと難しいだろうな。中国政府は主権免除に強い立場をとっていて、2011年6月にコンゴ民主共和国政府の債務不履行問題に関して三度にわたり「立場を説明する」書簡を香港政府に送り、香港の終審法院(日本の最高裁に相当)が中国の全人代に解釈の確認を求めたことが「一国二制度」上問題ではないかと話題になっていたからね(2012年6月26日付日本経済新聞)。中国の政府系企業とビジネスをする場合には要注意だ。

ヤクシデ：うん。主権免除もそうだけど、中国に限らず、実務上は特に政府系企業は準拠法選定に関して融通が利かないことが多いな。以前、某国政府系企業とのジョイントの投資案件があった時に「自国法を準拠法にすることは投資に関するタイトポリシーだ」と相手方が言い張るんだ。調査してみたら当該国の法的な義務ではないことは分かったんだけど、「じゃあそんなポリシーが書面であるなら見せてみろ」じゃカドが立つって、いい案件に呼ばれて大喜びのビジネスサイドがそもそも腰が引けちゃってて、困っちゃったよ。日本への出資案件なら「日本の会社法上の理由で」とか「日本が不動産所在地だから」という理由で準拠法交渉を有利にすることもできたんだろうけど、あいにく当該国の会社に共同出資するケースだったりで分が悪かったんだ。

オオウナバラ：そりゃ大変だったね。あつ、もう最後の幕が開くぞ。早く席に戻ろう！

第三幕：同じく蝶々の家

(明け方まで蝶々はピンカートンを待っていたが疲れて仮寝に入った。その時、ピンカートンが妻のケイトを伴ってシャープレスとともに「懐かしい愛の家」にやってくる。ピンカートンは蝶々に会うつもりはなく、ただ子どもの存在を知り、子どもを引き取りに来たのだ。そこにスズキが早朝の掃除に庭に出てくる。驚く

スズキにピンカートンは困惑しながら見知らぬ外国人女性を指し、シャープレスは声を落としながら「奥さんだ」と告げる。スズキは「あの方の太陽は消えてしまった!」と嘆く。シャープレスが事情を話し、蝶々に丁寧に伝えてくれるように頼み込む。しかしピンカートンは逆にスズキから蝶々がどれほどの苦しみと希望を持って彼を待っていたかを聞く…)

スズキ：蝶々さんはひどくお疲れになっていました。一晩中お子様と待っていました。

ピンカートン：どうして知っていたのだ…。

スズキ：この3年間、港に着いた船は全部、蝶々さんが遠くから色や旗を見分けていました。

シャープレス：（ピンカートンに向かって）言ったとおりだろう？ 私は言っただ。結婚する時に「気をつけなさい、彼女は真剣だ」と。

スズキ：ああ、私はなんて不幸なんでしょう。それ（子どもを引き渡す）を母親に言えとおっしゃるのですか…

ピンカートン：（自責に駆られ、涙を抑えることができず、シャープレスに向かって）私は一瞬のうちに犯した罪を知りました。もはや心の休まる時はないでしょう。ああ、この花の甘い香りに私は耐えられない…私は外で待ちます。

（ピンカートン、「さようなら、愛の家よ」を独唱後、いたたまれなくなってその場を立ち去る。ヤクシデ、客席で「ヒキョウモノ!」と罵る。直後に蝶々が「あの方はいらっしゃったの?」と言いながら縁側に出てくる。そこには泣いているシャープレスとスズキ、そして…見知らぬ外国人の婦人。スズキからピンカートンがここまで来て立ち去ったことを告げられ、蝶々は衝撃を受けながらもすべてを悟る）

シャープレス：（苦しそうに）…このご婦人は心ならずもあなたの不幸の原因になった人です…。許して…あげてください。

蝶々：ああ、奥様ですのね。ああ！ 私からすべてを奪っていくのね。子どもまで。（絶望して）ああ、悲しい母親！ 子どもから離れるなんて。（落ち着いて）でもそうするわ。あの方の言うとおりにしなければならない。

ケイト：（おずおずと）私を許してください、蝶々さん。

蝶々：（沈んだ様子で）あなたほど幸せな人はいません。末永く幸せでいてください。私のために悲しんではいけません。

（蝶々、部屋に戻る。そして、子どもを抱きしめて言う）

蝶々：お前、小さな神様であるお前！ ああ、天国の玉座から私の所に降りてきた子。母親の顔をしっかりと見ておくれ…いい坊や さようなら。（か細い声で）さあ遊んでおいで。

蝶々は子どもを夕
蝶々は小刀を手に

蝶々：…「誇りを

（蝶々が小刀を袖
戻ってきたピンカ
む。行灯が消え、
ん！ チョーチョー

観客：（演目）
〜ビ!」「チョ
〜!!」（何度も

ヤクシデ：（感極
晴らしかった。上
もやっぱり許せな
なんてヒトデナシ
オオウナバラ：ま
はブッチーニがこ
ういう意味ではオ
幕ではピンカート
ど、1904年の初演
たんで、情に厚い
ニは早速手直しし
ヤクシデ：へ〜、
んかするかな、って

国人女性を指し、シャープレス
キは「あの方の太陽は消えてし
蝶々に丁寧伝えてくれるよう
ら蝶々がどれほどの苦しみと希

た。一晩中お子様と待ってい

さんが遠くから色や旗を見分け

とおりでらう？ 私は言った
剣だ」と。

（子どもを引き渡す）を母親

ができず、シャープレスに向
もはや心の休まる時はないで
い…私は外で待ちます。

後、いたたまれなくなつてそ
ノ！」と罵る。直後に蝶々が
出てくる。そこには泣いてい
の婦人。スズキからピンカー
々は衝撃を受けながらもすべ

らずもあなたの不幸の原因に

を奪っていくのね。子どもま
れるなんて。（落ち着いて）
ならない。

さん。
せん。末永く幸せでいてくだ

言う)

の玉座から私の所に降りてき
や さようなら。（か細い声

（蝶々は子どもを外に送り出す。^{あんどん}行灯に照らされた障子の影が蝶々の姿を写す。
蝶々は小刀を手に取り、そこに彫られた言葉を読む）

蝶々：…「誇りをもって生き遂げられない者は誇りを持って死ぬ」…。

（蝶々が小刀を横から喉に当てる様子が障子に写し出される。スズキと呼ばれ
戻ってきたピンカートンが異変に気づきシャープレスとともに庭から家に駆けこ
む。行灯が消え、障子の向こうが暗転する。ピンカートンが「チョーチョーさ
ん！ チョーチョーさん！」と叫ぶ…。）

（背景のスクリーンに毛筆で大きな文字）

「FINE（完）」

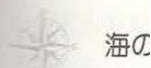
観客：（演日終了と同時に観客総立ちになり大歓声と万雷の拍手）「ブラ
〜ビ！」「チョウチョーさ〜ん！ チョウチョーさ〜ん！」「いいぞ、いいぞ
〜!!」（何度もカーテンコール）

神戸三宮駅に向かう帰り道：

ヤクシデ：（感極まって目を赤く腫らしながら）いやあ素晴らしかった、素
晴らしかった。上手く言葉で表現できないけど、血が熱くなっちゃった。で
もやっぱり許せないなあ、ピンカートンの奴！ 子どもまで引き離しちゃう
なんてヒトデナシだ。

オオウナバラ：まあまあ、冷静になれよ。演劇なんだからさ。ただ君の反応
はブッチーニがこの作品を作った時に意図したものとおりでらうから、そ
ういう意味ではオペラ鑑賞者として真っ当な反応だと思うよ。ところで第三
幕ではピンカートンが罪の自覚に「さようなら、愛の家よ」を独唱したけれ
ど、1904年の初演ではなかったんだ。でもあんまりピンカートンが非情だっ
たんで、情に厚いイタリア人の観客に不評だったらしいな。そこでブッチー
ニは早速手直しして、この歌でピンカートンに懺悔させてみせたのさ。

ヤクシデ：へ〜、アメリカ人があの時代に東洋の島国に捨てた花嫁に同情な
んかするかな、って、あの部分に違和感を持ったのは、やっぱりそういう事



海の

「号外
の海難事
派遣して
島〔注：
間23時頃
前方0.1マ
たが、同
りして同
フランス
バーとし
れ、従者
両者とも
が果敢に
巻きに巻
る。クル
進機関を

それはまた
艦エイブラ
怪物」に遭遇
くる怪物に文
という鈍い
は、鋼鉄の装

情だったんだね。

オオウナバラ：ピンカーтонаの代わりに家賃を払い続けて蝶々さんを支えた
シャープレスもいるから、アメリカ人っていてもいろいろさ。そもそもこ
の話が実話かどうか不明なんだけど、プッチーニは異国での男女の愛を描
くのを得意としていて、これは当時の観客の異国趣味を満足させたのは間違
いない。しかし日本の多くの情報が流れている現代でもこの「蝶々夫人」は
抜群の人気があるんだ。恐らくその理由は、男女の愛にかかわる普遍性が時
代と場所を超克しているからじゃないかな。それと僕が心を揺さぶられるの
は、開国の時代に生きた女性である蝶々さんは目覚めたばかりの日本、先祖
から受け継いでいる芯の強さは持っているけど海千山千の欧米列強に比べて
まだ初心で国力は脆弱、ピンカートンを通して太平洋を越えた隣の大国アメ
リカに純粋な好奇心や信頼、それは「愛」のようなもの、そして結局裏切ら
れた時、この国を支えてきた高貴な精神が最期の光を放つ、そんな部分だね。

ヤクシデ：（さも感心したように）深い解釈だなあ…（ニヤニヤしながら）
君は司馬遼が好きだろう？

オオウナバラ：（苦笑して）まあね。ここは第12話（163頁以下）にもかかわ
るのさ。ところで先入観を与えないように言わなかったんだけど、今夜の
蝶々さんを演じた夢野蝶子は先般イタリアのプッチーニ音楽祭でソプラノ部
門最優秀賞になったばかりの神戸出身23歳、抜群の歌唱力と容姿で現地では
「チョーチョーさんの生まれ変わり！」と絶賛されたんだ。端正なピンカー
トンを演じたイタリア系アメリカ人の新進マリオ・パパロッティは今回の夢
野蝶子の凱旋公演のために神戸までわざわざNYから来てくれたというわけ
さ。彼女はその後メトロポリタン歌劇場にも呼ばれている。NYに乗り込ん
でいくということだから、これから日本を代表する我らの「マダム・バタフ
ライ」は頼もしいね。ついでに言うとお母さんも声楽家で、「蝶々夫人」が
大好きだったという理由で彼女の名前も決めたそうだよ。さっき君が興奮し
て立ち上がった時に「シーっ！」って注意していたご婦人だ。